

春山 燕から常念へ

2014年5月3日～6日

L : 磯部S、ざ・料理人、手塚、市川、平川、磯部N (記)

5月3日 晴れのち雨と霧

前夜浜松を出発し、仮眠場所は安曇野周辺の道の駅やしゃくなげ荘駐車場などは集中しそうなので、烏川溪谷緑地の駐車場としました。ここは全くの穴場でほぼ独占、トイレは超豪華で快適でした。

GWの燕岳登山の混雑ぶりは聞いていたので、早めに中房温泉にたどり着いたはずでしたが、既に駐車場は満杯。林道路肩の広いスペースを見つけ（それもラストか・・・）大きく安堵。燕山荘テント場確保に不安を覚え、若手の平川さんが槍ヶ岳組の廣瀬さん達と一緒に先に行ってテント場を確保し、残りのメンバーを待ってもらう計画で出発しました。



登山口にて、先発隊（というか、ペース速い隊）



大混雑の第2ベンチ

天気は良く、初級者でも行けるコースなので登山者はかなり多く、40人のツアーにも会いました。合戦小屋までがやたら長く、ずっと傾斜のある登りが続き、疲れもでてきたころ雨が予想外に降り出し、視界も悪くなってきました。

合戦小屋で大休止した後、ひと登りで樹林帯を抜け緩い雪稜歩きですが風も強く、足にけいれんが起きたりしてペースがガクンと落ちてしまいました。

見えるはずの燕山荘も霧の中、疲れ果てて、ようやくたどりつき平川さんと合流しました。

3時間待ちぼうけです（ありがとうございました）。

彼が何とか確保してくれたテント場で強風の中、テントを設営し、風よけのブロックもみんなで積み上げました。

稜線の雪は固く、ブロックを切り出すにも一苦労でした。

竹ペグも念入りに埋め込みました。（隣の単独の人はフライが風ではずれたようです。）

天気はようやく回復しましたが一晩中、強風が吹いていました。



左が私たちのジャンボ。雪ブロックを積む料理人



かわいいライチョウ（実は常念小屋近くで激写です）

<タイム> 中房温泉登山口(8:00)－第二ベンチ(9:45)－燕山荘テント場(15:50)

5月4日 晴れ時々曇り

朝、起きると絶景が広がっていました。雪を覆った槍ヶ岳への稜線もくっきり見えていました。小屋の前はご来光を待つ登山者で混雑していました。私たちは燕へ向かう途中でご来光を見ました。朝日を浴びながら、燕岳登頂です。



燕岳頂上。左バックに槍穂連峰



山頂より今日向かう縦走路全景。右奥は大天井岳。左奥は常念岳

テント場へもどり、テント撤収（竹ペグ回収に一苦勞・・・）ののち、大天井岳へ出発です。

登山者は極端に減ります。今日は風も穏やかで気分良く歩を進めます。

蛙岩が一つの難所でした。大岩の間を抜けるのにザックが引っかかり、足下は凍っていて斜度もあり、全員が抜けるのに手間取りました。たまに岩と雪のミックスが出てきますが、ゆっくりとのんびりと、快適な稜線歩きが続きます。



右手に槍を見ながら、快適に縦走



大天井岳への急登、ピッケル差す手に力が入る

くせ者は大天井岳への登りです。見るからにかなりの斜度。荷も重く、ピッケルをさしながら、集中して登りました。

前半は急でしたが、頂上が近づくにつれ傾斜も緩み、ようやく無事に大天井岳にたどり着きました。大天荘が見えてホット、気分もゆるみました。

本日の行程は時間が予想外にかかり、常念までは無理なので、大天井の冬期小屋で泊まりです。重い鉄の扉を上にあけると中は二階もあり、きれいでした。

寒さよけに二階の梁を利用してテントをカヤ状に張り、6人が二階に寝ました。

後から、下には女性2人が入ってきました。

夕方からまた風が強くなり、雪も降っているようでした。小屋の中は快適で夜は暑いくらいでした。



大天井岳直下の大天荘と、その右にちよこんと屋根を出した冬期小屋



冬期小屋入り口。スコップで時々雪かきしないと埋まってしまう

<タイム> 燕山荘テント場(4:45)－燕岳頂上(5:35-45)－テント場(6:25-8:45)－大天井岳冬

期小屋(14:40)

5月5日 強風と雪

朝から吹雪のような強風が吹いていました。

とても歩けそうになく、早々に停滞をリーダーが決め、みんなでほとんど横になって過ごしました。

下に泊まっていた女性達は、昨日来た道ということで常念めざして出発していましたが、新たに男性2グループが入ってきました。

燕岳を目指して行こうとしたらしいですが、まったく道がわからないと引き返してきたようです。

外はホワイトアウト状態で、足跡は直ぐに雪に埋もれ、用足しも気をつけないと小屋に帰りつけないような厳しさでした。

初の停滞で、予備日も使うことになり、食料の残量を確認してたりして、悶々とした1日でした。

5月6日 強風のち晴れ

朝から日差しがまぶしいくらいでした。天気は良さそうですが、相変わらず風がかなり強く、雪が舞い上がって飛んできます。

出発時間を外の様子を見ながらリーダーが決めました。

風について出発しましたが、なだらかだとはいえ、ずっと稜線歩きが続くので、風が痛いくらいでした。

予測より風は弱まることなく、時々耐風姿勢で停まったり疲れの出ている仲間にペースを合わせながら常念小屋をめざしました。この間、風を防ぐ場所はほとんどなく、1m強の岩陰が2カ所あっただけで、そこで小休止しました。

冬期小屋での他パーティーからの情報で、東大天井から南は夏道でアイゼンもいらないということでしたが、前夜の雪が10cm前後積もっていました。おかげで雪化粧で景色は美しく、白く染め上げられてきれいでした。結局、東大天井岳も横通岳も夏道通しでピークは踏まず巻いていましたが、危険は感じませんでした。(赤旗も立っていた。)



東大天井岳手前縦走路。強風で雪が舞う



常念小屋への大下りで、風は弱まる。元気復活のみなさん。バックの槍穂も最高！

小屋が見え始めると、風も弱くなり、運良くライチョウにも出会い、そのかわいい姿に癒され、写真もとりました。
常念小屋でうどんやおそばを食べ、コーヒーを飲み、大休止をして下山開始です。

乗越から直ぐの250mほどの下りがずっと急なので心配でしたが、ステップもしっかり刻まれているし、雪も溶け始めているのでほどよく沈み、バックステップをすることもなく、きゃーきゃー言いながらも通過しました。

芽吹き始めた樹々と雪の一の沢、雪解けの水が流れる溪に春を感じ、幸せを感じながらのんびりと下り、その後は雪と泥のミックスした登山道途中でアイゼンをやっと外しました。無事に帰ってよかったなと思いつつ、たらたらと登山口まで戻りました。



一の沢最初の下り。雪は安定していた



下山口にて、最後まで元気いっぱいの有望新人平川さん

<タイム> 大天井岳冬期小屋(6:30) – 常念小屋(11:35-13:00) – 一の沢登山口(17:10)

以上